

都民大会男子、37チームの頂点に!!

世代交代で若返った2年目の旧〔板橋選抜〕は、チーム名も〔板橋クラブ〕と呼称変更。大会終了後のグラウンドへ各選手が集まっての合同練習はじめ、他流試合にも積極的に挑戦しながら選手個々の特徴を生かした適材適所で磨きをかけ、都民大会直前の実戦を想定した守備練習では、「全選手のやる気がチームワークを形成」し、「満を持しての都民大会挑戦!」となり、周囲も認めた今年の《第68回都民体育大会》は、まさに『練習は嘘をつかない』を各試合が証明して37チームの頂点を制覇した。

2回戦完封、3回戦快勝

大会第1日目の5月9日(土)の朝方は小雨交じりのグラウンドコンディション下で、我が板橋クラブは2回戦が初戦の文京区戦。

投手鈴木の低めに決まる変化球が相手を翻弄、敵失を含む好打を絡めて7-0と時間切れながら完封勝利。続く第2日目(10日)の3回戦の足立区戦は、2回に一举4点を先取後、3回に1点を失うも、時間切れの4-1と快勝して準々決勝戦へ。

準々決勝戦～決勝戦、すべて逆転サヨナラ!

第3日目の**準々決勝戦**は、強豪の府中市を振り切って勝ち上がった福生市。初回裏に1点を先制するも、2回2点、3回に1点と逆転と加点を許したが、リリーフした浜田の好投が流れを引き戻し、4回に1点を返した次の5回、3番田中、4番樽本の連打で追いつくと、2死2塁から6番名倉の中前安打で4×3のサヨナラ勝利。

続く**準決勝戦**はお隣の北区戦。初回に先制を許すも、2回裏に同点後、4回に掴んだ無死満塁で1番対馬の右前タイムリーでサヨナラ。

この日3試合目の**決勝戦**は、古豪で百戦練磨の羽村市戦。3点を先行される苦しい展開ながら、最終回の7回までに粘り強く小刻みに返して3-3に持ち込む。8回は、規定に基づく無死2塁に走者を置いてのタイブレーカーに。先攻の羽村市を0に抑えたその裏、二死二塁から4番樽本の左翼線へのサヨナラ安打で、37チームの頂点に上りつめた。

朝まで飲み明かした美酒!!

久々の優勝に沸いた勢いはそのまま勝利の美酒へ。明るく17日の連盟夏季大会が継続中の戸田グラウンドでは、優勝と一晩中飲み明かした噂はたちまち広がり、自チームを応援に来て?ベンチの後ろで、日差しの強まりもものともせず、未だ歓喜の夢を貪っていた微笑ましい光景も見られた。

連盟主催「優勝を祝う会」に

下田会長のご発声で祝福!!

5月31日(日)の午後6時から、志村坂上の「和民」を会場に、連盟主催の「優勝を祝う会」が開催され、優勝したチーム関係者では監督・コーチ・選手・記録員を含む20名が中央の席に、それを囲んで、ご多忙中に駆けつけていただいた下田体育協会会長、連盟関係では末吉会長はじめ、宮崎理事長以下の役員、審判員、チーム関係者による計50名が出席した。

下田会長のご祝辞と乾杯のご発声で、3時間におよぶ祝勝会が進む中で、同大会に関与した自連盟の複数の審判員による座興の投票で、田中潤キャプテンが最高殊勲選手に選ばれ、本人から喜びの所見も述べられた。

大盛況だったこの祝勝会は、都民大会優勝の祝勝会であるとともに、引き続き6月7日から始まる全国大会へつながる都ソ協主催の社会人春季大会出場に向けた激励会でもあった。

早川記

「優勝を噛みしめるナイン!」

